

語り継ぐ② 平和への思い

終戦後に行われた、連合国による東京裁判（極東軍事裁判）で死刑判決を受けた東条英機元首相ら7人のA級戦犯をはじめとする戦犯34人の処刑に立ち会った僧侶がいる。仏教学者で当時、金沢市・宗林寺の住職だった花山信勝さん（1898～1965）。同寺では、「あの戦争は何だったのか。遺品が語りかける平和の尊さを発信していきたい」と、信勝さんが保管してきた戦犯の絶筆となった署名や遺品を、戦後70年を機に昨年から公開している。

「私にしができない平和発信」



宗林寺本堂の地下に保管されている戦犯の絶筆や遺品を解説する花山勝澄住職。写真はA級戦犯で処刑された7人の絶筆署名（複写）

金沢市・宗林寺住職 花山 勝澄さん

金沢市中心部の武蔵町。観光名所の近江町市場にほど近い閑静な住宅街に宗林寺がある。5月から、戦後70年を機に一般公開することにした。

「私は、世間からいつも『A級戦犯を教誨した花山の孫』という目で見られてきました。それが重荷でした。祖父が大切に遺品を保管し、A級戦争責任者たちの辞世の署名を石碑にし、境内に置いた意味を考え続けてきました。そして、戦後70年が過ぎた今、少しずつ祖父と向き合えるようになってきました。花山信勝の孫にしかできないことがあると気づき、一般公開を決めました」と語る。

信勝さんの孫にあたる勝澄住職（60）は昨年祖父と向き合えるようになってきました。

信勝さんのことは父・勝道さんから伝え聞いてきた。

東大助教時代 教誨師に任命

信勝さんは昭和12（1937）年に召集令状を受けた。しかし、入隊時の身体検査で「即日帰郷」を命じられた。そして、昭和20年8月15日の終戦を迎えた。

当時、東京帝国大学

刑死したA級戦犯の遺品など公開 祖父・信勝さんが教誨師、34人の処刑に立ち会う



巣鴨プリズンで仏教の教誨師を務めた花山信勝さん



巣鴨プリズンの跡地に建てられた石碑には「永久平和を願って」と刻まれている

の助教だった信勝さん。巣鴨プリズンで仏教の教誨師を探していることを知り、本願寺の東京教学研究所の先輩・大原性美さんと共に志願した。英語が話せ、真宗学者でなく仏教学者、そして47歳と若さ、この3つの条件で信勝さんが選ばれた。任命は昭和21年2月だった。

その後3年間で、A級戦犯7人、BC級戦犯27人の処刑に立ち会ったという。

信勝さんは教誨で面談した時の様子をメモに書き残し、後に『平和の発見』という著書にまとめた。そこにはA級戦犯7人のことが詳しく記されている。7人とは、元首相・東条英機、元奉天特務機関長・土肥原賢二、元中支那方面軍司令官・松井石根、元陸軍省軍務局長・武藤章、元陸相・板垣征四郎、元首相・広田弘毅、元陸軍次官・木村兵太郎で、昭和23年12月23日未明、絞首刑となった。その直前、信勝さんは「辞世」と考え、紙を用意した。しかし時

東大助教時代、信勝さんは昭和12（1937）年に召集令状を受けた。しかし、入隊時の身体検査で「即日帰郷」を命じられた。そして、昭和20年8月15日の終戦を迎えた。

当時、東京帝国大学

祖父の願いを 伝えるのが役目

勝澄住職はその署名の北米赴任中、夏休みには、静けさを感じたり、初めて祖父と二人で過ごしたという。中

勝澄住職は信勝さん

歌いなさいと教えられました」。

その祖父が残した戦犯者の遺品と向き合う勝澄住職。「平和がどれだけ尊いのか、私の死をもって平和への礎にしたい」とお念仏を称えて刑死した7人のA級戦争責任者の思い。二度とこのような戦争が起らないことを願

学1年だった。「厳格なイメージを持っていましたが、とても優しい人でした。人生、く穏やかな人でした。厳しいことは言わず、朝夕はお仏壇に手を合わせて『讚仏偈』『誓偈』をおとめし、仏教讃歌『礼讃歌』を

（221）8650。